

- 1 蝶が産む風とらんぷの塔くづす
- 2 ふらここに青空を掠めた記憶
- 3 鉛筆を凜ととのへ受験生
- 4 卒業の椅子きらきらと仕舞ふこと
- 5 澄む息のしやぼん玉ほどよく飛ぶよ
- 6 呼び鈴のおくれて鳴れる桜の町
- 7 妹の野遊びミュシャの花環編む
- 8 レフト・フライ雲雀の空の円心より
- 9 凧の糸繰るゆびさきのかぜつかひ
- 10 風車にからまり古都を彩る風
- 11 遠足のバスに眠る子双子座めき
- 12 賢治詩集春の北斗が葉に欲し
- 13 五月来る神童の膝やはらかく
- 14 マウンドの聖域青嵐のなか
- 15 虹の根のあたりが祖父の少年期
- 16 籐椅子に伏せて仏語のうすき辞書
- 17 恋文の作法を梅雨の間に忘る
- 18 燕の子育つ音符のごと顫(ふる)へ
- 19 白シャツに透けて眼鏡のジョン・レノン
- 20 扇風機つけてポラリスとの交信
- 21 背泳ぎの腕手旗信号に似る
- 22 浴びながらシャワーの水の散弾飲む
- 23 熱帯夜ギター弦の弛みやまず
- 24 走馬灯祖母の背たちまちに縮み
- 25 鳴らすたびギターが思ひ出すキャンプ

- 26 〔トランプにうつすら甲虫の匂ひ〕
- 27 〔七夕の天の水波む観覧車〕
- 28 〔あさがほが空の五線譜へと絡む〕
- 29 〔かなかなの声を葉のやうに醒め〕
- 30 〔補助線を引けば流星また流星〕
- 31 〔いわし雲統べゆく放課後のタクト〕
- 32 〔手に拾ふ音又はあきかぜの鎖骨〕
- 33 〔靴紐のいくつ解(ほど)けし運動会〕
- 34 〔山葡萄ひしめく十六連符ほど〕
- 35 〔林檎より洩れて童話のまちあかり〕
- 36 〔仕送りの手紙が包む里のもみぢ〕
- 37 〔秋深く人魚のカフェの灯の昏(くら)く〕
- 38 〔私語つつましく初雪の図書館は〕
- 39 〔蜜柑剥く作法それぞれ剣道部〕
- 40 〔居眠りは詩の糧雪の窓しづか〕
- 41 〔ストーヴを消す告白の支度のごと〕
- 42 〔講堂や雪の向かうは馬車の町〕
- 43 〔チェコ映画短く白鳥の夢か〕
- 44 〔北欧の氷柱に音階のあらむ〕
- 45 〔聖夜劇のいもうと星を司り〕
- 46 〔方位磁針北指す枯野ずつと来て〕
- 47 〔除夜灯りをり考古学研究室〕
- 48 〔羽根取りにゆく青空へ梯子立てて〕
- 49 〔茶話となり了(しま)ひの講義始かな〕
- 50 〔手毬唄ときに異界の姉を恋ひ〕

- 51 うすらひを割り明星の空を割る――
- 52 ひな祭部屋水牢のいろに昏(く)れ――
- 53 花冷の螺旋をくだり来る素足――
- 54 水置きて朝寝のひとの枕もと――
- 55 林檎の樹眠る間も花咲きこぼす――
- 56 海市指すためほどく手の淡さかな――
- 57 陽炎の彼方を祖父の舟過ぎし――
- 58 永き日の回転木馬の回転止む――
- 59 さへづりにまみれて金貨落ちちるたる――
- 60 アークード・ゲームに春の星潰(つい)ゆ――
- 61 恋猫の挟まる安酒場のピアノ――
- 62 銀貨賭けてビールの王冠を弾く――
- 63 雨の音のつづく千年かたつむり――
- 64 梅雨の夜を黄金の騎士歩みゆく――
- 65 地球儀の影に午睡の美少年――
- 66 幼くて母の日傘の影はみ出す――
- 67 逢ひにゆく氷菓の匙を二つ貰ひ――
- 68 背より抱きしむベランダの夜明けまへ――
- 69 おなじ空見てをり麦茶冷むるまで――
- 70 泳ぎ果て素描のやうに眠りみつ――
- 71 昏睡の手がすいれんの夢を漕ぐ――
- 72 水のうへを花火の燦の流れゆけり――
- 73 手の甲を夜店の光る輪が照らす――
- 74 短夜の夢挽く銀のオルゴール――
- 75 旧居留区や七夕の星飾り――

- 76 朝冷は金の鞍置くごと来たる―
- 77 秋茜浮く弦楽の果てし野に―
- 78 林檎の実載せて旅路の膝となる―
- 79 画架立ちて人なき湖畔きりぎりす―
- 80 月仰ぐとき電柱のマストめき―
- 81 くらがりへピアノ曳きゆく黄落期―
- 82 霧退(すき)りゆけり汽笛を内包し―
- 83 夜学の灯と銀河鉄道の窓の灯と―
- 84 唐辛子切る魔女の儀に招かれず―
- 85 ランナーのごとく雪待つ交叉点―
- 86 雪が消す路地にチョークの魔法陣―
- 87 口笛やトム・ソーヤーに紙の櫓―
- 88 コート着て名画座へ星盗みにゆく―
- 89 冬帽子取つてバレリーナのお辞儀―
- 90 サークスの檻に木枯色の象―
- 91 手品師の手が凍蝶の屍をつまむ―
- 92 曲馬団去りし広場に寒星集ふ―
- 93 オーロラのひかり織る寒さと思ふ―
- 94 ラグビーの創口にあをぞら滲む―
- 95 日記買ふ箔やはらかきものを択り―
- 96 革手袋嵌む森番の祖父に肖て―
- 97 淋しさが狩人に笛作らしむ―
- 98 初詣祈りの長さきみに揃へ―
- 99 双六の宙の旅ゆく消しゴムよ―
- 100 紺うすく初星の空刷り出さる―